

## C—5 家庭管理に対する意識調査

長崎県立短大

酒井ノブ子

1. 家庭管理の本質について研究を進めるために、主

婦ならびに他の家族の家庭管理に対する意識調査を行ったので、ここに報告する。

2. 調査の対象は家庭環境、学歴、年齢、性別などを考慮して標本をとることに努力した。又調査の方法は、家庭管理の主体と客体、家庭管理の仕方などについて質問紙法により直接面接して行った。

3. これらの調査から次のようなことが分った。

家庭管理の主体については、夫や子も家庭の経営管理には意見をのべるべきであり、又家事をある程度分担すべきであるという意見は家庭環境、学歴、年齢、性別を問わず圧倒的に大多数であった。ただ忙しくない家庭では男子にまで家事を分担させる必要はないという意見が可成り多くなっている。

客体については、思い切った意見を持っている人もあり、これは又家庭環境、学歴、年齢によって考え方に可成りの差が出ている。

家庭管理の仕方については稍封建的な考え方がまだ可成り残っており、これは、又学歴、年齢による差が相当に大きい。